たんとキッズあおき通信

Vol.16

たんとキッズあおき　ことばの教室スタート

１月から療育プログラムに新たに「ことばの教室」という特別プログラムがスタートします。これは、普段から言葉が上手に出ない、話しづらい、聞き取りづらい、食べ物を上手に食べられない、飲み込めないなど、口や喉の動きに関連する悩みに対して、専門の言語聴覚士（ST）の方が療育トレーニングを実施してくれるものです。
以前から、要望、希望はあったのですが、やっと専門のSTの方の協力を得られることになり、スタートする事ができます。

コラム　～　１３年という時が過ぎて改めて振り返る　～

今年は年明け早々から能登半島地震が起き、今でも多くの方が被災し復興を目指して、日々過ごしています。そして、多くの復興支援チームが派遣され、私達、障がい福祉チームでも全国から被災地に行き支援をしています。不幸にもお亡くなりになられた方々には、心よりご冥福をお祈りします。今回は、たんとからは人材の余裕がなく直接復興支援に向かう事はできませんが、間接的な復興支援を行っていきたいと考えています。
１３年前は、３月に日本でも最大の大震災「東日本大震災」がありました。まだ佐久事業所のみで事業をおこなっていましたが、ちょうど学校にお迎えに行く直前にあの地震がおきました。
その後、テレビから次々と流れてくる衝撃的な被害状況は今でも忘れることができません。
更に翌日、この長野県でも長野県北部地震が起きそこでも大きな被害が出ました。
私達も、あの頃は何をどうしたらいいのかわからない状況でした。仲間の事業所が無事なのかどうかもわからない中、少しの情報から当時のネットワークを使い、厚生労働省からの発信で西日本の有志といっしょに「つなぐネットワーク」という名称で初動支援を開始しました。
当時は、今のように災害起きた時の初動が確率されておらず、想いの強い方々がバラバラで動き、それが逆に混乱を招くキッカケにもなっていました。
阪神・淡路大震災の頃の教訓や経験を活かし、復興支援体制が整うまでの間の情報整理と通常の物資ではなく、専門的な物資の調達などを扱いながら、たんとは現地に正確な情報などを提供する役割を受け持ちました。当時はまだまだ正確に把握できなかった事業所の場所を各県の事業所の住所から Google マップに流される前の場所がわかるようにピンを立てていくプログラムなどを作ったり、現地で必要な物資を西日本の支援チームに伝達するための共有ファイルなどの仕組みを整理。そして、現地に日々、厚労省から発表される決定事項を書類から携帯やパソコンからも確認できるよう専用のホームページを作っていました。およそ３ヶ月、毎日、昼夜問わず決定通知が発表されると、直ぐにメールで情報を送ってもらいデータに直してホームページで見れるようにしていました。あの頃の教訓を活かし、今回の震災では初動の混乱はかなり少なかったこと、そして初動時に不足する物資の提供もスムーズに行われたと聞いています。今回の震災で被災された皆様が、一日でも早い復帰・復興を祈っています。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんとキッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

たんとキッズあおき（ＮＰＯ法人たんと。）
TEL 0268-75-6789
青木村田沢3075－1
■開所時間　9:00-17:00
■定休日　土日祝日
NPO法人たんと

あなたの知らない発達障がいの世界

2024.03

教育　と　療育　って何がちがうの？

似た言葉でなんとなくイメージができている方もいらっしゃると思いますが、新しい年度にみなさんの目に止まるので、改めてこの２つの言葉を考えてみたいと思います。

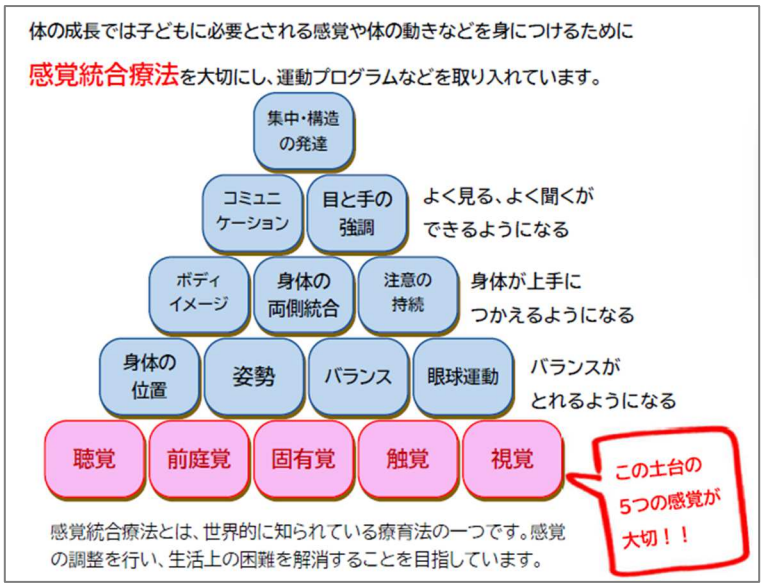
♥教育とは♥

今の時代ですからほとんどの方が必ず受けるものですよね。日本では義務教育は小学校～中学校まで定められていて、日本で暮らす子どもはよほどの理由がなければ中学までは必ず通う事が義務として保護者に課せられています。原則として、日本全国どこでも同じ内容、基準の教育を受ける事ができ、義務教育で習う内容は将来大人になった時に必要とされている知識を学ぶ事になっています。とはいえ、私立や進学校と呼ばれているところは、最低限定められている内容に付加して、より多くの内容を授業として提供しているところもあります。意外かもしれませんが、義務が課せられているのは本人ではなく保護者なんですよね。学校教育自体は、今、学校に通うということも含め、様々な考え方があり、改めて日本の教育ということは考えなければならないかもしれませんが、それは専門の方々にお任せします。

♠療育とは♠

では、療育ってなんでしょう？もともとは、身体障がいのお子さんに対してその子に沿った教育内容を提供する言葉として使われていましたが、現在は、発達障がいのお子さんや多様な特徴を持つお子さんに対して、その方が大人になってからも社会生活が送れるように日常生活や、もともと本人が持っている能力を引き出し、年相応の能力が発揮できるように支えながらトレーニング（ここではあえてトレーニングと表現させていただきます）に取り組む、もしくは、自分自身の苦手さを理解し日常生活を送っていくために必要な工夫を覚えていく事を「療育」と呼んでいます。療育支援事業所の中には、療育＋教育を提供している事業所も多く存在しており、年齢相応の能力以上のトレーニングを提供しているところもありますが、現在事業を実施している多くの療育事業所は、「日常生活」を目標に組み立てたプログラムが提供されています。

療育はとても分かりづらいですよね。実際に療育と教育がよく理解する事が難しく、塾や体操教室などと変わらないと思われている方も少なくありません。
内容は似ていることが多くありますが療育の中では感覚統合という考え方を大切にしながらトレーニングプログラムが作られています。
特に小さいお子さんや発達がゆるやかなお子さんに対しては実年齢の能力ではなく、実際の能力に合わせたプログラムを提供しており、がんばって、努力をして能力を身につけるというよりは、その方の成長に合わせてその時に必要なプログラムを提供しています。



たんとキッズあおきパンフレットより抜粋

たんとキッズあおき　では年相応の能力が発揮できるようになってきた時は、サービスを終了したい、別の苦手な事に注目していますが、必ず全員が年相応の能力を身につけるというわけではありませんが、生活に必要な能力を身に着け、その子が地域で、さらに自分が望む生活が送れるように日々プログラムを実施しています。